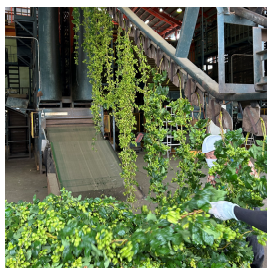
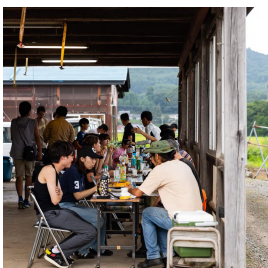
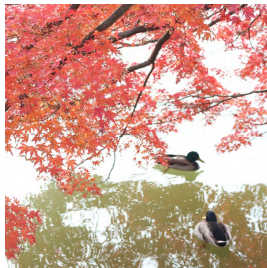


農業・農村分野で活動する地域おこし協力隊

My Challenge Book

東北農政局岩手県拠点



人と人のつながりに感謝



岩手県内では、地域おこし協力隊への期待が年々高まっています。市町村の首長の皆様からも、「協力隊のおかげで地域が元気になった」「協力隊の活動を通じて職員の意識が変わった」といった声を多く伺っており、協力隊の皆さんと地域の方々とのつながりが、確かな変化を生み出していることを実感しています。

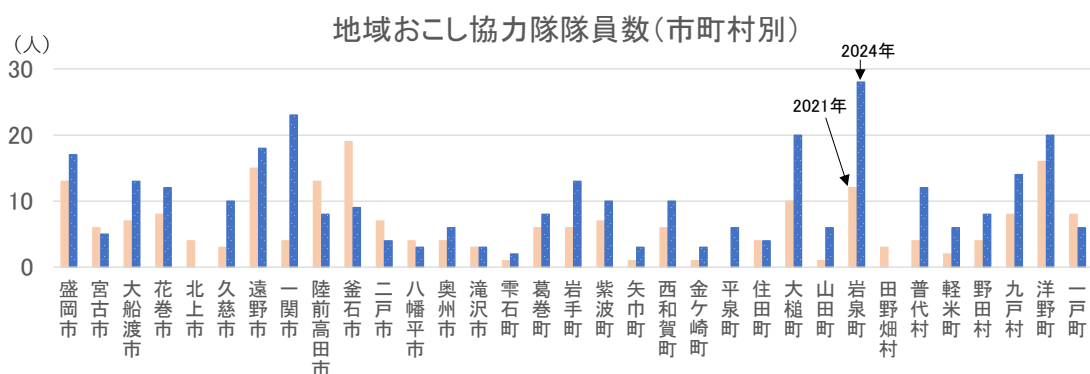
協力隊の皆さんはご縁あって岩手に移住し、地域の人々に支えられながら活動されています。慣れない土地での挑戦には不安もあると思いますが、その一つ一つの出会いが活動の力になっているのではないのでしょうか。

岩手県拠点としても、人と人とのつながりを大切にしながら、皆さんの活動を応援してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

また、お近くにお越しの際は、お気軽にお立ち寄りいただければ幸いです。

ー 岩手県の地域おこし協力隊の状況 ー

岩手県の地域おこし協力隊の隊員数は313人（令和6年）で、全国で5番目に多い隊員数です。県内の隊員数は年々増加（全国も増加）しており、地域の活性化や産地継続等、様々な分野で活躍しています。



岩手県拠点の取組

岩手県拠点では、農業や農村に興味を持ってチャレンジする協力隊の皆さんの声に耳を傾け、隊員同士が相談し合えるネットワークづくりの一助となるよう、情報交換の機会を設けています。



活動の中で抱える課題の把握や解決に向けた情報提供

岩手県拠点職員が隊員の皆さんのもとを訪れ、活動内容や課題等を直接お聞きしています。また、農林水産省の関連施策の情報提供も行っています。

隊員同士が気軽に相談し合えるネットワークづくりの場の提供

年1回、農業・農村分野で活動する県内の隊員の皆さんをオンラインでつなぎ、情報交換会を開催しています。



県拠点のホームページを活用した隊員に関する情報発信

岩手県拠点が把握した隊員の皆さんの活動状況を、ホームページでご紹介しています。

この冊子のご案内

この、「My Challenge Book」では、

岩手県拠点職員が直接訪問し、お話を伺った隊員の皆様
(No.01～13に掲載)

令和8年2月27日にオンライン開催した情報交換会にご参加いただいた隊員の皆様
(No.14～22に掲載)

をご紹介します。
QRコードを掲載している隊員の方もいらっしゃいますので、
詳しい活動の様子は、そちらからご覧ください！
「My Challenge Book」を通して、隊員の皆様のご活躍を
多くの方々に知っていただけますと幸いです。

Member

01~13

岩手県拠点職員が直接訪問し、お話を伺った隊員の皆様です！

14~22

情報交換会（R8.2.27）にご参加いただいた隊員の皆様です！

軽米町

13 堀田 翔平
礼佳



ホップ

滝沢市

18 隅谷 百葉



多品目栽培

盛岡市

14 吉田 一生



商品開発

矢巾町

20 北村 龍史



水稻

西和賀町

10 菊池 菜奈



野菜

11 照井 真



リンドウ

花巻市

16 高木 健



ぶどう

平泉町

21 新井 泰雄



ヤーコン

一関市

05 マナニ 奈津子



水稻

岩手町

06 伊原 寛一郎



発酵
あんこ

07 上村 光治



関係人口

08 笹渡 繁巳



クラフト
ビール

09 長根 和徳



スポーツ

12 刈屋 翔磨



岩泉町

22 小笠原 竜慈



畑
わさび

紫波町

19 村上 一江



まちづくり

大船渡市

15 今井 雄一



ワイン

遠野市

01/17 高橋 康児



ホップ

02 高橋 勇大

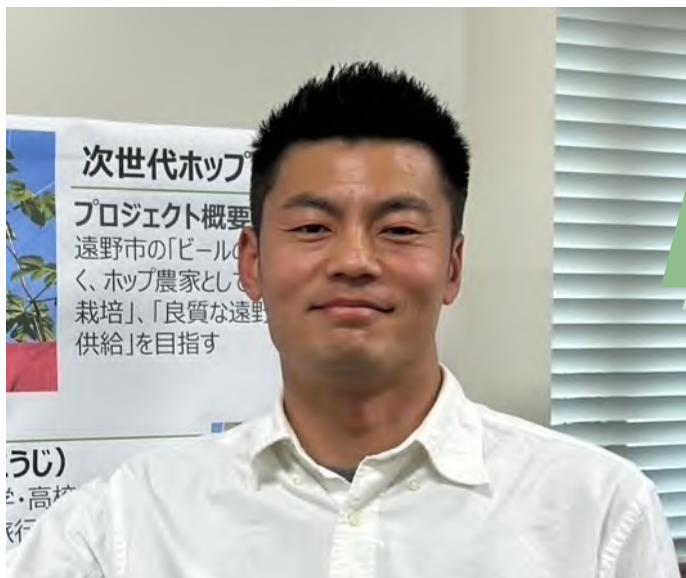


03 山口 一也



04 吉目木 築





ホップだけでなく

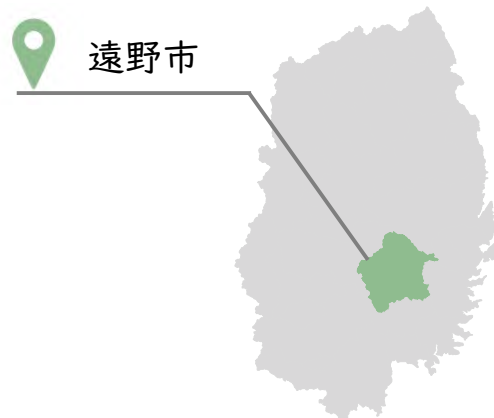
地域の力になりたい

高橋 康児

たかはし こうじ



遠野市



任期 令和6年4月～

活動内容 ホップ栽培

出身地 埼玉県

転出元 埼玉県三郷市

REPORT

ホップ栽培と地域に馴染む活動と挑戦

1 ホップとスポーツがきっかけに

令和6年4月に地域おこし協力隊として遠野市に着任した高橋康児さんは、次世代ホップ農家プロジェクトに参加し、地元の先輩農家のもとでホップ栽培のノウハウを学んでいます。

高橋さんは、ビールやサッカーが好きということもあり、遠野市の取組に興味を持ちました。ホップ栽培の他に、地域のお祭りに参加したり、スポーツチームにも加入して地域に溶け込めるように精力的に活動しています。



ホップ収穫時のトラクターの運転

2 遠野市で自然に触れる学びを

ホップ栽培は先輩農家や市職員からのアドバイスを受けて技術を積み重ね、2年目となる今年は、自ら考えて作業に取り組むことにも挑戦しています。

また、ホップ栽培や農作業を通じ自然に触れることで、都市では味わえない、自然の深い癒しや安らぎの効果を感じることができるといいます。高橋さんは、将来的な希望として、古民家などを活用した、不登校などの子どもたちが農作業体験ができる、学びと心の居場所を作りたいと考えています。

高さ約5.5メートルのホップ棚からの収穫作業





ホップのまち遠野で

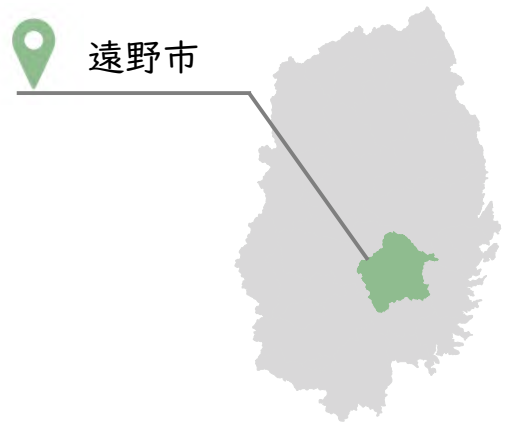
3年後の成長を

高橋 勇大

たかはし ゆうた



遠野市



任期 令和6年10月～

活動内容 ホップ栽培

出身地 埼玉県

転出元 埼玉県さいたま市

REPORT

地域の支えを力に技術の習得と就農を目指す

1 ビール好きがきっかけ

令和6年10月に地域おこし協力隊として遠野市に着任した高橋勇大さんは、ビール好きだったこともあり、SNSで偶然見つけた遠野市のホップに興味を持ち、地域おこし協力隊の存在を知りました。

ホップ栽培は先輩農家や市職員からのアドバイスを受けて技術を積み重ね、2年目となる今年は、自ら考えて作業に取り組むことにも挑戦しています。



収穫トラックの上で収穫作業

2 3年後を見据えた準備を一つひとつ

地域おこし協力隊は3年の任期。また、ホップは多年草植物で、株が十分な大きさに育つまで3年を要します。

「今は地域の方々に支えてもらってばかりなので、しっかり技術を身に付けて恩返してできるように、前向きに活動していきたい。」と高橋さんは話します。

高橋さんは、3年後を見据え、栽培技術の習得に加え、就農に向けて具体的な農地や住居の確保、機械や資材などの調達に向けて一つひとつ準備や検討を進めています。



ホップ収穫後の調製作業



遠野にしかないもの

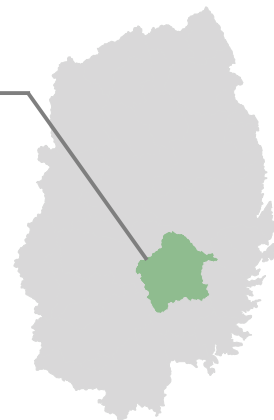
地域とともに伝統を継ぐ

山口 一也

やまぐち かずや



遠野市



任期 令和6年11月～

活動内容 ホップ栽培

出身地 北海道

転出元 北海道札幌市

REPORT

ビール好きが導いた、ホップ畑での新しい日々

1 ビール好きがきっかけ

令和6年11月に地域おこし協力隊として遠野市に着任した山ロー一也さんは、次世代ホップ農家プロジェクトに参加し、地元の先輩農家のもとでホップ栽培のノウハウを学んでいます。山口さんは、ビール好きからホップ栽培に興味を持ち、前職のシステム開発から大きく転身し、自然の厳しさや楽しさを感じながら活動しています。

1年目は農家としての基本、道具の扱い方やホップ栽培の基礎を学び、2年目はさらに理解を深めるとともに、より主体的に行動し、将来の独立に向けて研鑽を積んでいます。

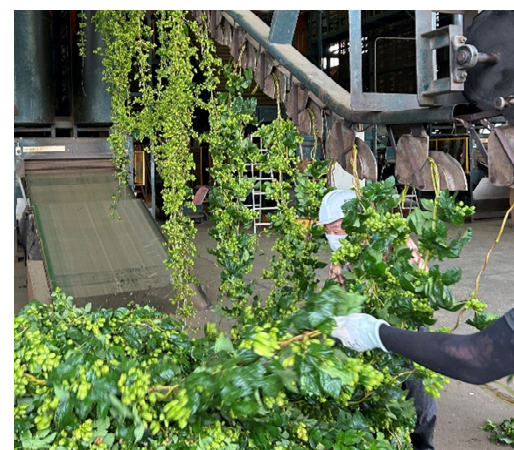
2 最高の祭りで気持ち新たに

毎年8月末に市内で行われる「ホップ収穫祭」では、遠野市に多くの観光客が訪れます。ホップの収穫・調製作業の最盛期と重なりますが、「収穫祭は作業の疲れが吹き飛ばすほどに、最高に盛り上がる」と山口さんは話します。

山口さんは、遠野市ならではのこの伝統の一端を担える存在になりたいと、決意を新たにホップ栽培に向き合っています。



トラクターによる耕起作業



収穫したホップの調製作業



寒さにはまだ慣れない

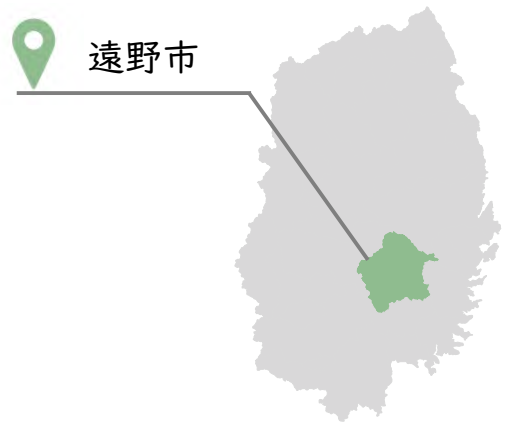
けれど、地域の人には温かい

吉目木 築

よしめき きずく



遠野市



任期 令和6年4月～

活動内容 ホップ栽培

出身地 千葉県

転出元 茨城県日立市

REPORT

二人三脚でホップとわさびに挑戦

1 「農家に挑戦したい」がきっかけ

令和6年4月に地域おこし協力隊として遠野市に着任した吉目木築さんは、3～4年前から夫婦で農業に挑戦したいと色々探していたところ、「新農業人フェア」に参加したことをきっかけに、遠野市のホップ栽培を知りました。

夫婦で新天地に赴き、築さんはホップ栽培、奥様はわさび栽培の挑戦が始まりました。

遠野市の寒さにはまだ慣れないようでしたが、地域の人との温かいつながりの中で、充実した生活を送っています。



翌年に向けたホップ棚の整理作業

2 将来はホップとわさびの栽培を目指す

ホップ栽培は先輩農家や市のアドバイスを受けて技術を蓄積しているところで、奥様はわさび栽培の勉強を始めています。

来年は協力隊任期最終年となることから、農地の取得も進めているところで、目標の半分まで準備が整ってきています。栽培技術の習得と並行しながらホップとわさびの栽培を行える土地や住居探しなど、やらなければいけないことは多いですが、夢に向かって進む表情は輝いていました。



整然と並ぶホップ棚の横をトラクターで中耕

食べ物は

人の優しさをつくる

マナニ 奈津子 まなに なつこ

任期 令和7年3月～

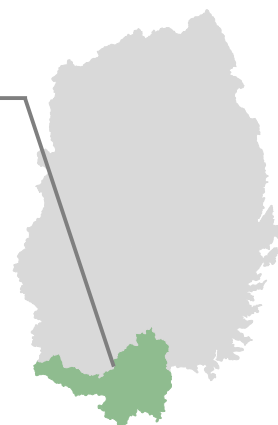
活動内容 水稲栽培

出身地 岩手県山田町

転出元 東京都（以前はアメリカ在住）



一関市



REPORT

食べ物のことをもっと意識してほしい

1 有機農業を始めたきっかけ

令和7年3月に地域おこし協力隊として一関市に着任したマナニ奈津子さんは、15aの水田を借り受け、有機農業の技術を学びながら水稲栽培に取り組んでいます。

マナニさんは、以前アメリカに住んでいたとき、スーパーマーケット等の売場で有機農業で生産された農作物というものがあるということを知りました。子供の病気をきっかけに有機農産物を購入していましたが、コロナ禍に入手困難となり、自給自足の必要性を感じたそうです。



除草作業の様子

2 有機農業に対する思いと現在の活動

みどりの食料システム戦略の「2050年までに有機農業の取組面積割合25%」という目標に興味を持ち、「日本で有機農業を広めるためには地域の理解、消費者の理解醸成が必要」とマナニさんは考えています。

「安全なものを自分でつくる。みんながそういう農作物を自給自足していけばいいのではないか？」との思いで、まずは自分で除草するなど自然に近い形で農作物を育て、楽しみながら勉強することを第一に活動中です。



マナニさんの
水稲ほ場



田植え作業の様子



豆×発酵で

町をますます元気に

伊原 寛一郎 いはら かんいちろう

任期 令和5年5月～令和8年4月

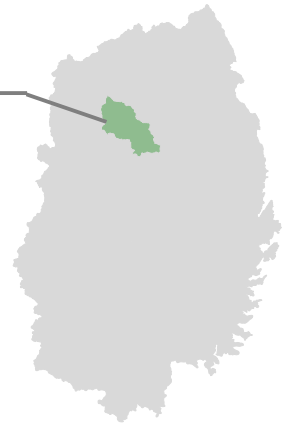
活動内容 豆の栽培、加工、商品開発

出身地 宮城県仙台市

転出元 大阪府大阪市



岩手町



REPORT

「発酵あんこ」を岩手町の名物に

1 「豆と発酵」をテーマに始動

令和5年5月に地域おこし協力隊として岩手町に着任した伊原寛一郎さんは、仙台市で東日本大震災を経験したことをきっかけに改めて「食」や「農」について考えるようになり、その後のコロナ禍で「健康」にも気を遣うようになりました。

以前は、研究職に就いていた伊原さん。自身のキャリアを活かして自由に事業を提案できる岩手町の協力隊制度に惹かれ、この町にやってきました。元々好きだった豆と、健康効果を持つ発酵食品の力に着眼し、「豆と発酵」をテーマに、協力隊としての活動を開始しました。



小豆の種まき作業の様子

2 「発酵あんこ」で町おこし

豆は、栽培から加工までを手掛けており、麴を使った砂糖不使用の「発酵あんこ」を町の名物にするべく活動中です。活動3年目の現在は、小豆の種まきから発酵あんこ作りまでを通年で体験するイベントを開催しています。このイベントの情報はSNSでも発信しており、町外からも参加者が訪れるなど、地域を越えた町おこしにつながっています。

今後も発酵あんこの取組を続けていく予定で、いずれは豆の有機栽培にも挑戦してみたいと考えています。



生育中の小豆
黄色いお花が咲き、
小さなさやがなっています



伊原さんが作った発酵あんこ



“ゼロ”から

“イチ”を作り出す

上村 光治 かみむら みつはる

任期 令和4年9月～令和7年8月

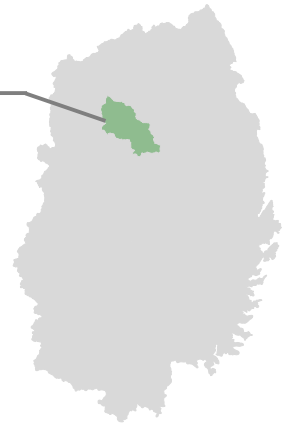
活動内容 農業を軸にした関係人口の創出、援農活動等

出身地 埼玉県加須市

転出元 東京都目黒区



岩手町



REPORT

地域の枠を越え、挑戦を続ける

1 自然豊かな環境と、町民の人柄に惹かれて

令和4年9月に地域おこし協力隊として岩手町に着任した上村光治さんは、友人の紹介で、以前から小・中学校や高校のワークショップの講師として岩手町を訪れており、豊かな自然や地域の方々の人柄に惹かれていました。町から、「協力隊として関係人口づくりの業務を委託したい」と打診を受けたことをきっかけに、協力隊としての活動を開始しました。令和5年4月には、町の関係人口拡大を目指す「いわてまちAチーム」を立ち上げ、援農活動やイベントの企画等を通して町の課題解決に取り組んでいます。



りんごの着色管理作業



どうもろこしの収穫祭

2 町全体を会場としたイベントを開催

岩手町は、世界各国のアーティストが制作した130点以上の石彫が点在している「アートのある町」でもありますが、近年、そのイメージを持っている町民も少なくなりました。もう一度、「アートの町」だということ呼び起こすために、令和7年8月、町全域を会場としたイベント「ART& CULTURE SYNERGY GATHERING」を初めて開催し、県内外から来場がありました。協力隊卒業後も、同イベントを継続して開催したり、農村RMO(※)を立ち上げるなどして、町の関係人口創出につなげていきたいと考えています。



イベントの様子

(※)複数の集落の機能を補完して、農用地保全活動や農業を核とした経済活動と併せて、生活支援等地域コミュニティの維持に資する取組を行う組織のこと



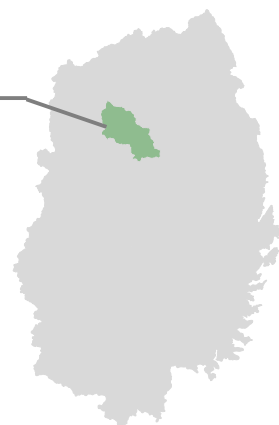
町の原風景や音を

感じてほしい

笹渡 繁巳 ささわたり しげみ



岩手町



任期 令和4年9月～令和7年8月

活動内容 自然界の酵母を活用したクラフトビールの商品化

出身地 岩手県岩手町

転出元 神奈川県横浜市

REPORT

町に新たな賑わいの場を作りたい

1 自然界に潜む新たな酵母を探し求めて

令和4年9月に地域おこし協力隊として岩手町に着任した笹渡繁巳さんは、元々、バイオベンチャーの会社で免疫細胞等について研究をしていました。前職の経験やノウハウを活かした事業提案が可能な岩手町の協力隊制度に魅力を感じ、Uターンで協力隊となりました。「クラフトビールで町に新たな賑わいを生み出したい」という思いで、岩手町の自然界から発酵に使える酵母を採取し、その酵母を活用したクラフトビール開発の挑戦が始まりました。着任後2年目前半までは、町内の名所や神社、パワースポット等を探索し、落ちていた枯れ葉等から酵母を採取するという日々。計600種類ほどのサンプルを集め、最終的に3種類の野生酵母を発見することができました。



酵母探索のもととなった枯れ葉等(左)、酵母培養の様子(右2枚)

2 “岩手町”を感じるクラフトビールが誕生

2年目後半からは、3種類のうち1種類の酵母「103」を活用したクラフトビール開発に着手しました。酵母「103」は、石神の丘美術館の屋外展示場で採取したもので、フルーティーな香りが特徴。令和7年5月には、350mL缶としての発売まで実現させました。協力隊卒業後も、ほかの2種類の酵母を活用したクラフトビール開発に取り組み、地域活性化に貢献したいと考えています。



缶のラベルとなったイラスト
岩手町出身の小向成美さんによって
酵母の探索地が描かれました



皆がいい顔で過ごせる

世の中に

長根 和徳 ながね かずのり

任期 令和7年2月～令和10年1月

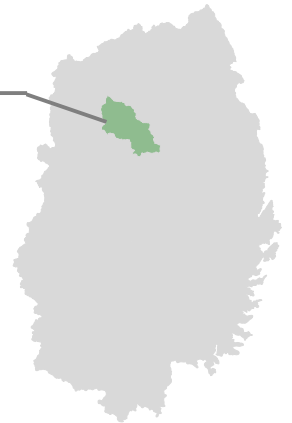
活動内容 援農活動

出身地 岩手県盛岡市

転出元 岩手県盛岡市



岩手町



REPORT

「農業×スポーツ」で地域の活性化を目指す

1 スポーツをきっかけに岩手町へ

令和7年2月に地域おこし協力隊として岩手町に着任した長根和徳さんは、学生時代からサッカーやフットサルに携わっており、岩手町の女子サッカーチームをサポートするためにこの町にやってきました。そこで、地域課題解決チーム「いわてまちAチーム（以下、Aチーム）」の存在を知り、「地域のために活動したい」との思いが芽生え、協力隊としての活動をスタートさせました。



りんごの植樹をしている様子

2 Aチームでの活動と今後の夢

Aチームでは、住民の声に耳を傾け、聞こえてくる地域課題の解決に向けた活動に取り組んでいます。現在、長根さんは、Aチームの一員として、りんごの摘果やトウモロコシの種植えなど、地域の方々との交流を深めながら援農活動に励んでいます。

他地域では、スポーツ選手が農業に取り組む事例が増えており、農業の人手不足や、スポーツ選手のセカンドキャリア問題等を解決する一つの手段となっています。将来は、岩手町でも、農業界とスポーツ界を連携させた取組を実現させ、町に活気を生み出したいと考えています。



岩手町の少年サッカーチームで活動している様子

食と体験

魅力を伝えたい

菊池 菜奈

きくち なな

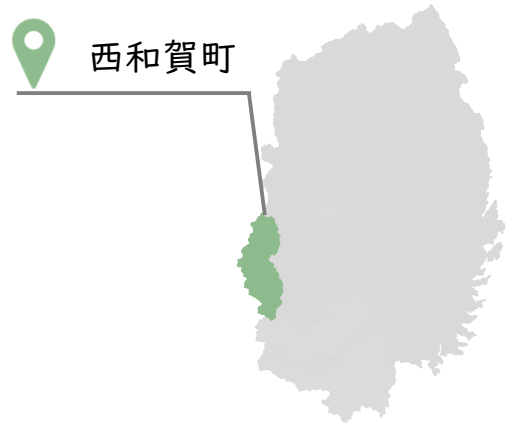
西和賀町

任期 令和7年4月～

活動内容 野菜栽培

出身地 岩手県矢巾町

転出元 岩手県紫波町



REPORT

食べ物と体験を通じたコンテンツを

1 雑穀の魅力を伝えたい

令和7年4月に地域おこし協力隊として西和賀町に着任した菊池菜奈さんは、町内の農業生産法人で野菜作りを学んでいます。

菊池さんは野菜や穀物のような植物由来のものを中心とした食生活を送る中で、あわやひえ、きび等の雑穀を自ら生産・販売することで魅力を広めたいと思うようになりました。現在は慣れない農作業に四苦八苦していますが、雑穀栽培に勤しみ、雑穀の美味しさや魅力を伝えたいと話します。



農園での作業の様子

ほおずきの収穫

2 食と体験を活かしたツーリズムも

野菜・雑穀の栽培を模索する一方で、菊池さんは馬耕（馬で田畑を耕す）、馬搬（山林で切り出した材木を馬で運搬）等、馬とのふれあいを軸とした農作業の組合せ等、新たな取組も提案します。

西和賀町の民泊に、野菜や雑穀の食を楽しみながら、馬や農作業の体験を組み合わせたグリーンツーリズムを楽しむコンテンツを提供して、町の魅力を伝えることができれば、関係人口の創出にもつながるのでは、と目を輝かせます。



瓶詰加工品の作成作業

青く凛とした花姿

リンドウをいっぱい



照井 真 てるい しん

任期 令和7年5月～

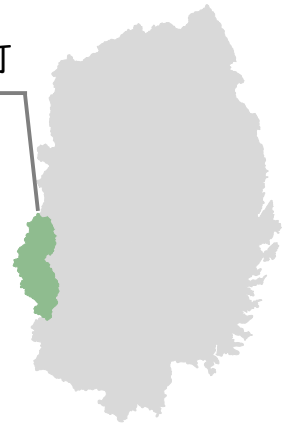
活動内容 花き栽培（リンドウ）

出身地 岩手県西和賀町

転出元 岩手県花巻市



西和賀町



REPORT

リンドウをつなぐ人と技術の継承を

1 リンドウを学び、作る

県立農業大学校で花き栽培を学んだ照井真さんは、花巻市の農業法人でリンドウの露地栽培の研修を受けている期間に西和賀町の地域おこし協力隊に応募し、令和7年5月から活動を始めました。リンドウの生産だけでなくPR活動にも取り組め、任期中に自分の基盤も整えられる協力隊制度は、「自分にはメリットしかなかった」と語ります。

将来的な就農も視野に入れている照井さん。現在は、町の気候や土壌に合ったリンドウ栽培の一層の技術の研鑽と、PR活動に励んでいます。



管理作業の様子

2 魅力を伝える取組に

リンドウ産地を牽引してきた農家は、現在では高齢化や離農により、産地としての維持や、栽培技術の継承を懸念しています。

そのような中、照井さんはリンドウの魅力を伝えるべく、生産に加え、町オリジナル品種の育種や、子供たちに町の特産品をPRする活動を模索しています。「リンドウの生産効率を上げて生産量を増やし、自分の就農体験が次の世代にも繋がるような経営や活動に取り組みたい」と、課題の分析とともに次の世界を見据えていました。



リンドウ

(品種名：風の音、飛竜)



山里で芽吹く

人と人の助け合い

刈屋 翔磨 かりや しょうま

任期 令和4年7月～令和7年6月

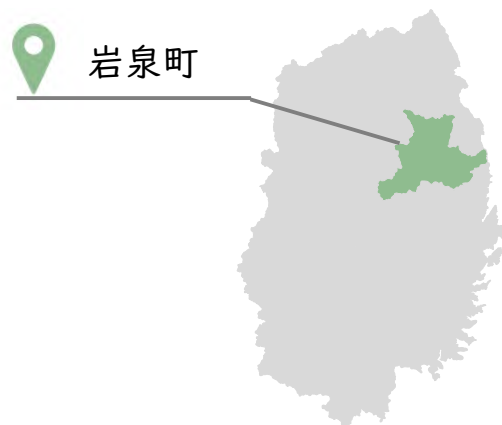
活動内容 畑わさびを主に、林業、漁業、狩猟業

出身地 岩手県岩泉町

転出元 神奈川県



岩泉町



REPORT

日本一の畑わさび産地を次世代に

1 自然を楽しむ。人の助け合いに感謝

令和4年7月に地域おこし協力隊として岩泉町に着任した刈屋翔磨さんは、神奈川県の海上自衛隊として勤務していました。

ふとしたことから「日本一の畑わさび産地」が、産地継承の問題を抱えていることを知り、そういった中で協力隊の募集があったことから応募しました。岩手県は、父の実家が宮古市であることから興味を持っていました。

畑わさび栽培は、自然の影響で思うようにいかないことが多いですが、近所の人に助けをもらうことが多い農村生活に、驚きと感謝、そして楽しみを見つけることが多いです。



近所の先輩農家と協力して作業

2 農・林・漁 “三刀流の活躍”

岩泉町の畑わさびは町の支援体制がしっかりしていることから、協力隊任期中に丁寧な技術指導を受けることができました。

現在は、畑わさびを主に、「特殊伐採（林業）」や「うにの畜養（漁業）」等にも関わるほか、狩猟業なども行っています。



多方面の活躍



【画像：刈屋さん提供】



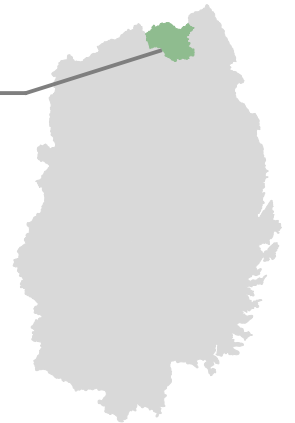
自然に囲まれながら

のびのびと

堀田 翔平 ほりた しょうへい
堀田 礼佳 ほりた あやか



軽米町



任期 令和6年9月～

活動内容 果樹、ホップ栽培

出身地 (翔平) 秋田県 (礼佳) 宮城県仙台市

転出元 宮城県仙台市

REPORT

農業をビジネスとして成立させたい

1 農業の世界に飛び込み、6次産業化を目指す

令和6年9月に地域おこし協力隊として軽米町に着任した堀田さんご夫妻は、元々仙台市で飲食店を経営していましたが、「自分たちで作物を育て、加工を手掛ける6次産業化に取り組んでみたい」と、思い切って農業を始めることにしました。軽米町の特産であるホップや葉たばこ等の工芸作物に興味を持ち、1年目は町のホップ農家の下で研修を受けました。農業をビジネスとして成立させるために、2年目からは果樹栽培をメインに活動しており、将来的には6次産業化につなげていきたいと考えています。

2 人とのつながりを感じる軽米町の魅力

現在、小さいお子さん2人を育てている堀田さんご夫妻。軽米町が子育て支援に力を入れていることも、移住の決め手となりました。同じ幼稚園に通う子供たちが声を掛けてくれるなど、地域の子供たちとの距離が非常に近く、子供を通してつながりが広がっていくことも魅力のひとつのことでした。

近所の方々も本当の家族のように接してくれ、地元の農家さんを紹介してくれたり、採れたての野菜をおすそ分けしてくれるなど、人の温かさを感じる人が多いそうです。



ブルーベリーの収穫作業の様子

情報交換会

岩手県拠点では、令和8年2月27日、農業・農村分野で活動している岩手県内の地域おこし協力隊をオンラインでつなぎ、情報交換会を開催しました。

活動現場で抱える課題や取組について活発な意見交換が行われ、お互いの経験や知見を共有する貴重な機会となりました。



当日は、岩手県ふるさと振興部地域振興室のご担当者様にもご出席いただき、

- ・県内の地域おこし協力隊活動状況
- ・県が実施する地域おこし協力隊向けの研修
- ・地域おこし協力隊が活用可能な県の支援や取組について、ご説明いただきました。

隊員の皆さんには、以下に掲載しているシートを使用し、お一人ずつ自己紹介をしていただきました。

14



盛岡市

よしだ いっせい
吉田 一生

Instagram



任期 令和6年3月～令和9年2月

出身地 岩手県矢巾町

転出元 神奈川県川崎市

商品や企画で道の駅もり
おか浜民や地域を盛り上
げ、役に立ちたい！

活動内容

- ・道の駅もりおか浜民を中心とした商品開発や企画運営
- ・地域振興活動
- ・イベント出店や商品販売など



応募のきっかけ

関東圏（東京、神奈川）で飲食店に従事していたが、家族も増え将来のビジョンを考えUターンを決意。
岩手での仕事を探している時に「協力隊制度」を知る。
飲食店業務で培った経験、スキル、知識を活かせるのではと思い一念発起し応募！



夢実現へ「これが必要！」

- ・地域と道の駅との連携をもっと活性化させたい！
- ・商品開発のための設備や、拠点が欲しい！
- ・「美味しい」だけではない魅力を商品に与えるための企画力が欲しい！
- ・自分の弱みを補い、強みを活かせる関係の仲間が欲しい！



仲間たちへのメッセージ

「人の役に立ってお金を稼ぐ」そんなシンプルで難しいテーマで日々活動し、事業立ち上げすることを目指しています！
また、小2と4歳の娘がいるのでこどもに寄り添うような活動にも興味があります。
なにはともあれ仲良くしてくれと嬉しいです。



大船渡市

Instagram

いまい ゆういち
今井 雄一



任期 令和4年4月～令和7年3月

出身地 埼玉県鴻巣市

転出元 鹿児島県肝属郡錦江町

自分が造ったワインを
たくさんの人たちに
飲んでもらいたい！

活動内容

協力隊時代は、受け入れワイナリーでの果実酒醸造及び、そのワイナリーが所有する畑でのリンゴとブドウの栽培管理を行っていました。令和7年4月からは個人事業主として、果実酒醸造及び、リンゴとブドウの栽培に関わっています。



応募のきっかけ

50歳を過ぎたところで、残りの人生はなるべく無理せず健やかに暮らしたいという思いと、自分以外の人たちに少しでも喜びを与えられたらいいなという思いから、自分が好きなワインに関わる仕事につくことを目標に脱サラし、ぶどう栽培及びワイン造りに関われる地域おこし協力隊を探して応募しました。



夢実現へ 「これが必要！」

実現させたいことは、自分が育てたブドウやリンゴから造られたワインやジュースを飲んでくれたお客様に、「ほっと一息」を感じていただくことです。それを実現させるために必要なことは「自然の恵みに感謝すること」と「いつも謙虚であること」だと思っています。



仲間たちへの メッセージ

ワインや果樹栽培に関わる人たちと繋がりたいです。ワイナリーや畑を案内できますので大船渡近辺に来た時はお声がけください。令和8年4月から、自分が育てたリンゴで造ったオリジナルシードルとジュースの販売を始めます。イベント会場などでお会いできたら嬉しいです！



花巻市

Instagram

たかぎ けん
高木 健



任期 令和6年4月～令和9年3月

出身地 神奈川県横浜市磯子区

転出元 神奈川県横浜市磯子区

美味しいブドウを多くの
人に届け、多くの人々を
集め、憩い、賑わう
「村」を創りたい！

活動内容

<花巻市大迫町における半農半X>
①ぶどう栽培（将来的に観光農園）
②「民泊や交流拠点」を運営し地域や市外からの来訪を促し過疎地域への賑わいを持たせ地域に貢献する。



応募のきっかけ

東京都で地方公務員をしていましたが、中学・高校生の頃からの農業従事への夢を諦め切れず、未経験でも従事可能だった地域おこし協力隊の受け入れ地域を見つけ、一念発起し途中退職して、縁もゆかりもない花巻市にIターンしました。



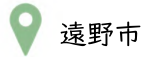
夢実現へ 「これが必要！」

ぶどう栽培のほか、コメ作りや麦、蕎麦、無農薬野菜などにも挑戦していくため、トラクターや運搬車、獣害対策用ネットや電気柵、観光農園用ハウスなど欲しいものは沢山ありますが、金銭的負担が伴うので安く譲ってくれる方を探しているところです。



仲間たちへの メッセージ

同じ協力隊の同じ農業従事仲間として効率化のヒントや栽培上の悩みの解決策など、ベテラン農家さんには聞きにくいことを和気藹々と共有していきたいので、末永くお付き合い頂きたいです。



遠野市

たかはし こうじ
高橋 康児

Instagram



任期 令和6年4月～令和9年3月

出身地 埼玉県三郷市

転出元 埼玉県三郷市

遠野のホップを日本へ、
そして世界へ。
自分で育てたホップを使用した
ビールを皆さんに届ける。

活動内容

- ①先輩農家の下で、ホップ栽培のノウハウを学ぶ
- ②先輩農家の畑で、ホップを育てる
- ③遠野ホップ収穫祭にて、ホップの魅力伝える



応募のきっかけ

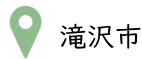
埼玉で中学・高校教員として15年間勤務。異動時期が近づくにつれ、「今までと同じ情熱を持って勤務することができない」と感じ、転職を決意。ビールが好きだったこと、また、サッカーに携わっていたことで遠野市を知っていたため、遠野市地域おこし協力隊・次世代ホップ農家に応募。

夢実現へ
「これが必要！」

- ・ホップ栽培の技術と経験
- ・ホップを育てるための畑の確保と整備
- ・畑で作業するためのトラクターとアタッチメント
- ・住んでいる地域の方々、作業する畑の周りの方々とのつながり

仲間たちへの
メッセージ

育てている物は違えど、同じ農業仲間なので、皆さんつながっていきましょう！そして、岩手の農業と一緒に盛り上げていきましょう！



滝沢市

すみや ももは
隅谷 百葉

Instagram



@MOMOHA.AGR_TAKIZAWA

任期 令和7年12月～令和10年11月

出身地 石川県白山市

転出元 愛知県名古屋市

多品種栽培のお百姓さん
を目指したい！

活動内容

農業簿記や大型特殊自動車の免許の勉強。
農業研修。



応募のきっかけ

岩手大学の農学部植物生命科学科で勉強していたが大学の勉強ではなく実地で研修や活動がしたいと考え応募しました。

夢実現へ
「これが必要！」

現在は農業研修にあまり行けていないのでこれからの農繁期において受け入れてくださる農家さんを探しています。また、一度きりの農業研修ではなく、師匠になってくださるような農家さんを探しています。

仲間たちへの
メッセージ

ほかの地域おこし協力隊の方と違ってスキルなどが何もないのでなんでも勉強して吸収できるように頑張ります！



紫波町

Instagram

むらかみ かずえ
村上 一江



任期 令和5年5月～令和8年4月

出身地 岩手県岩泉町

転出元 新潟県新潟市

農業と若者をつなぎたい！

活動内容

- 【農村まちづくりコーディネーター】
- ① 農業者と若者をつなぐ活動
 - ② 街中に畑を開き、農と関わる機会の創出
 - ③ 旬の野菜を使ったポップアップ餃子屋



応募のきっかけ

高校、大学で農業を専攻し、地域おこし協力隊の立場で農業の後継者問題に取り組みたいと思いました。具体的には若い人が農業にふれる機会を作り、学んできた農業の経験を活かし、農村のまちづくりコーディネーターとして活動したいと思い、フリーター型で募集をしていた紫波町に応募しました。

夢実現へ
「これが必要！」

食用ほおずきの栽培を行っていて、加工品や農業体験などにつなげていきたいと思っているが、栽培に苦戦している。

仲間たちへの
メッセージ

農業を好きになってもらいたいという思いで、多くの人に関わりながら、楽しく農作業をしています！
餃子をつつむことが好きです！



矢巾町

Instagram

きたむら りゅうじ
北村 龍史



@RYUJI_K_YAHABA_CHIOKO

任期 令和7年11月～令和10年10月

出身地 千葉県千葉市

転出元 千葉県千葉市

持続可能な農業を！
町内の農地が
生かされるように

活動内容

- ① 受け入れ農家さんの研修(水稲)
(3月から)
- ② 町内農家さんでの農作業補助
- ③ 地域イベントへの参加



応募のきっかけ

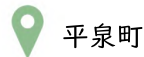
自分がこういった形で社会貢献ができるのかを考えていた時に、農業人口の減少について知り、自身が農家になることを考え始めた。地域との関係構築を行いながら、技術を取得できる地域おこし協力隊は、元々農業に伝手のなかった自身にとって魅力的であったため、農業分野の協力隊を探した。おためしイメージをおぼろげながら掴めたため、矢巾町への応募を決めた。

夢実現へ
「これが必要！」

- ・ 作業をとにかく経験して、農家さんのサイクルに慣れること
- ・ 多くの方に自分がやりたいことを伝えていくこと
- ・ 技術と知識をつけていきながら、就農に向けた計画を立てていくこと

仲間たちへの
メッセージ

まだ受け入れ農家さんでの研修は始まっていませんが、どうしたらいいかと迷うことが多いです。同じ県で近い分野の協力隊ということで相談をしあえるような関係性を作れたら良いなと思っていますので、今後よろしくお願ひします！



平泉町

あらい やすお
新井 泰雄

任期	令和5年4月～令和8年3月
出身地	大阪府東大阪市
転出元	大阪府東大阪市

ヤーコンを
平泉町から全国へ
そして 世界に

活動内容

平泉ヤーコン研究会を立ち上げ（6農家）ヤーコンの栽培技術、機能性研究、加工技術開発、商品化、販路開拓まで一貫して取り組み、一般社団法人平泉バイオレジリエンス研究所の事業を承継し、地域資源の産業化を進めている。



応募のきっかけ

耕作放棄地の増加や高齢化による地域農業の衰退に危機意識を持ち、関心があった中、平泉町で新しく奨励された「ヤーコン」に大きな可能性を感じた。
健康機能性を持ちながら、まだ、十分に活用されていない作物であり、栽培だけでなく加工・販売まで一体的に行うことで地域に新たな仕事と価値を生み出せると考えた。

夢実現へ
「これが必要！」

ヤーコンを平泉町から全国、そして世界へ届けるため、これまで加工品開発、展示会出展、試験販売に取り組んできた。
今後は、原料の安定確保と計画的生産、品質を担保する加工技術の確立、継続的な販路の構築が不可欠である。
岩手県工業技術センターはじめ、行政・大学研究機関との連携、人材の育成が重要となる。

仲間たちへの
メッセージ

地域おこしは、個人の情熱だけでは続きません。農業・加工・販売・研究・行政など、それぞれの立場や専門性が重なり合うことで、地域の力になり得ます。
失敗もあります。それを共有し次に繋げることが最も大切で互いの挑戦を尊重し、学び合いながら地域の誇れる農産業を一緒につくっていきましょう。



岩泉町

おがさわら りゅうじ
小笠原 竜慈

かもまんちゃんねる
@kamonan24

任期	令和5年6月～令和8年6月
出身地	岩手県八幡平市
転出元	京都府

一人前の畑わさび農家

活動内容

- ・受け入れ畑わさび農家さんでの研修
- ・自分の圃場の開拓



応募のきっかけ

京都に住んでいる時に行きつけの居酒屋で刻みわさびを初めて食べ、自分で作りたいと考えたのがきっかけ。

夢実現へ
「これが必要！」

- ・圃場の拡大
- ・作業効率
- ・安定した出荷量
- ・人員確保

仲間たちへの
メッセージ

食べて飲んで釣りするのが大好きです。

協力隊のリアルな声

情報交換会で交わされた、隊員の皆さんの声をご紹介します。

農業のカッコよさを
若い世代にも知ってほしいです！



Q 卒隊後の農地の確保はどうする？

- A**
- ・ 農業委員会に相談
 - ・ 農地を探していることを様々な場で声に出す
(運はおのずとついてくる…！)



Q 農業以外の活動（情報発信など）に
どれくらいの力を注いでよいものか加減が難しい…

- A**
- ・ 全ての活動は最終的に自分の軸につながるので、
やりたいことはやってみる！
 - ・ 任期中に自分の活動をどれくらい知ってもらえるかは重要

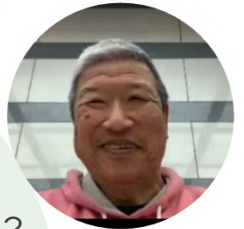
AIをフル活用しています！



民泊にもチャレンジします！

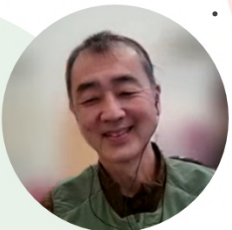
Q 高齢化や遊休農地の増加など、
農業の課題にどのように取り組んでいる？

- A**
- ・ 若者に農業の格好良さを伝えるために
イベントを企画、開催している
 - ・ 地域の特産品を知ってもらうために
特産品を使用した商品を開発しPRしている



Q 誰に何を相談したらよいか悩んでしまう…


- A**
- ・ いろんなところに飛び込んで、人脈をつくる
 - ・ 地域のこと詳しいお年寄りや、協力隊OB、
協力隊OGを頼ってみる
 - ・ 県の普及センターにぜひご相談を！



お問合せ先

農林水産省 東北農政局 岩手県拠点 地方参事官室

〒020-0033 岩手県盛岡市盛岡駅前北通1-10橋市盛岡ビル

 TEL 019-624-1125 (代表) FAX 019-654-2940

東北農政局HP



岩手県拠点HP

